

玉城町地方創生会議

第2回会議資料

2015年9月29日

資料内容

目次及び資料番号

	議事内容	資料番号
1.	第2回地方創生会議について	資料1
2.	玉城町まち・ひと・しごと創生に係るアンケート調査結果の報告	資料1・2
3.	人口動向に関する課題まとめと今後の方向性	資料1
4.	玉城町人口ビジョン【素案】	資料3

1. 第2回地方創生会議について

玉城町地方創生会議では、総合戦略策定に向けて 以下のスケジュールおよびテーマについて議論を行います

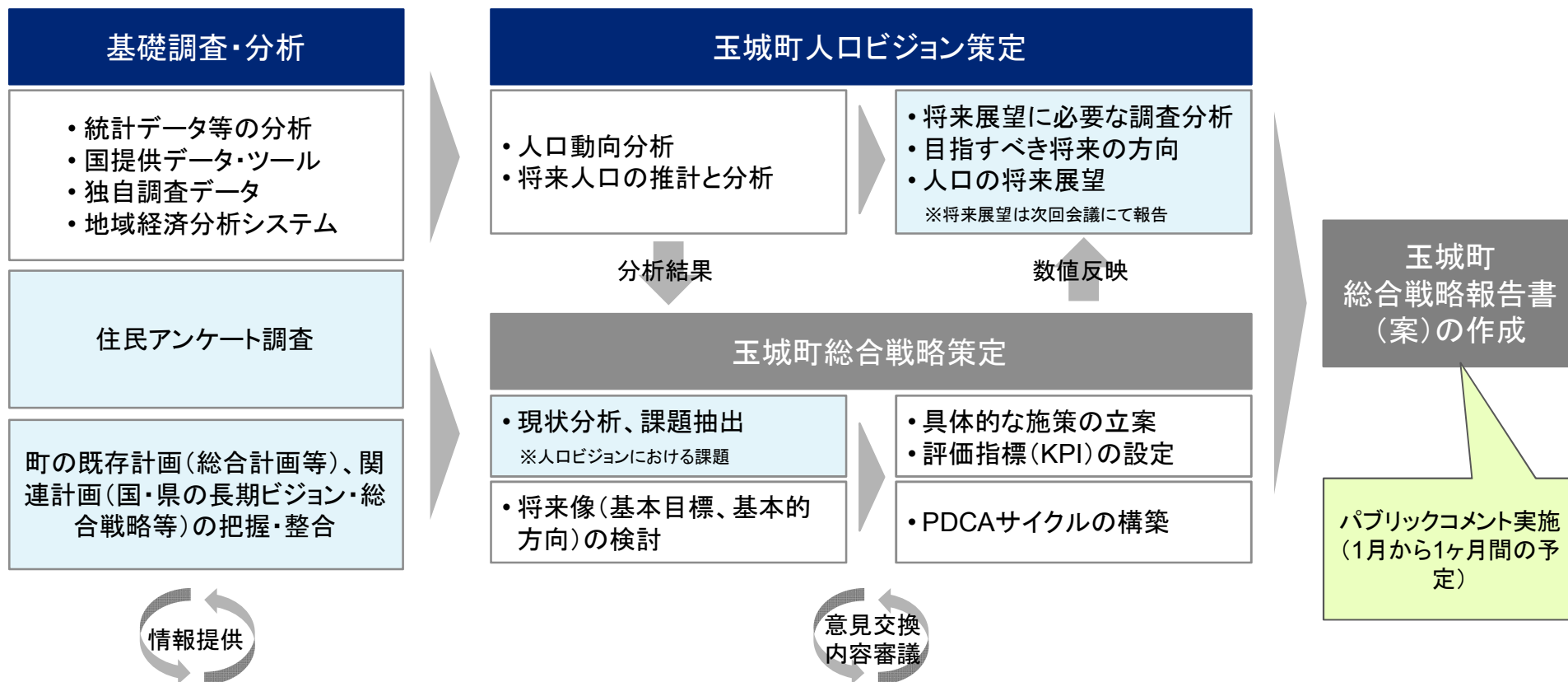
玉城町地方創生会議の実施内容

Step	日程	会議の実施内容
【第1回】 オリエンテーション 課題共有	8月7日	<ul style="list-style-type: none"> 策定の背景・目的の説明 会議スケジュール等の確認 人口動向分析・将来推計結果の報告 各委員の自己紹介(課題認識の共有)
【第2回】 課題・方向性の共有 基本目標の検討	9月29日	<ul style="list-style-type: none"> 第2回地方創生会議について 玉城町まち・ひと・しごと創生に係るアンケート調査結果の報告 人口動向に関する課題まとめと今後の方向性 玉城町人口ビジョン【素案】
【第3回】 総合戦略における 具体的施策の検討	11月13日	<ul style="list-style-type: none"> 具体的施策案の検討 総合戦略(素案)の構成内容の共有 具体的施策に関する協議
<p>(パブリックコメントの実施) (玉城町総合戦略策定)</p>		
【第4回】 総合戦略報告書 (案)の検討	2月下旬	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント結果報告 総合戦略報告書(案)の説明 総合戦略報告書(案)に対する意見交換

玉城町人口ビジョン及び地方版総合戦略策定に向け、次の流れで取り組みます

プロジェクト全体像

: 本日報告部分



「玉城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部」及び「玉城町地方創生会議」の開催

2. 玉城町まち・ひと・しごと創生に係るアンケート調査結果の報告

主な結果概要

結果まとめ1

※下記のページ番号は資料2の「玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果報告書」をご覧ください。

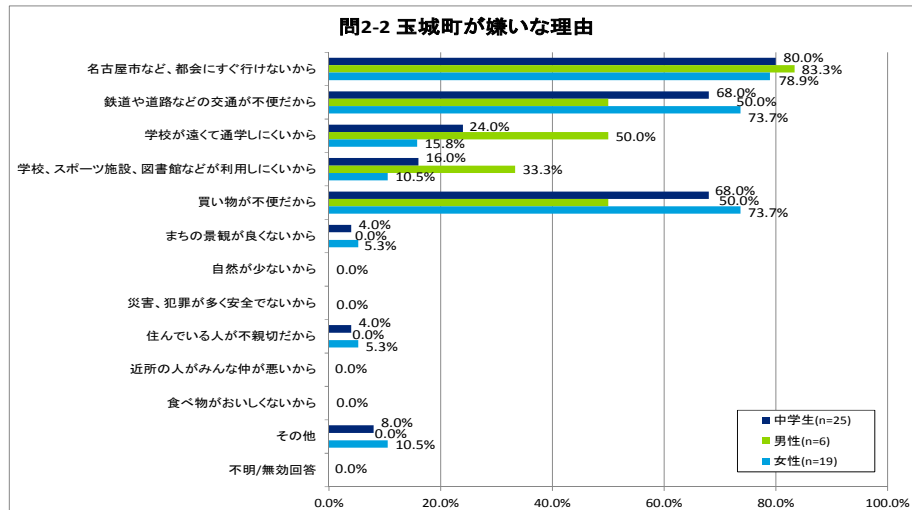
中学生アンケート調査

■ 玉城町への愛着について

- 玉城町のことを好きな中学生は80%以上となっている。(P4)

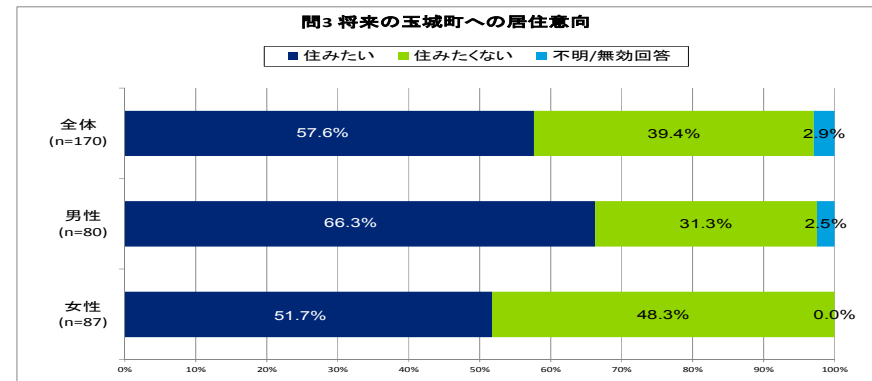
■ 玉城町が好きな理由と嫌いな理由について

- 玉城町が好きな理由としては、豊かな自然環境、安心できる生活環境(自然災害が少ない、治安が良い)に関する意見が多くなっている。また、伊勢市や志摩市などの大きなまちに行きやすいこともあげられている。なお、男女別では大きな差は生じていない。(P5)
- 玉城町が嫌いな理由としては、生活の利便性(名古屋市などの都会へアクセス、交通・買い物等)が悪いことに関する意見が多くなっている。男女別では、女性の方が移動や買い物の利便性が悪いことに対する意見が多い。(P6)



■ 将来の居留意向について

- 将来の玉城町への居留意向がある中学生は約60%となっている。(P7)



■ 将来玉城町に住みたい理由・住みたくない理由について

- 玉城町に住みたい理由としては、豊かな自然環境や住み慣れている点などがあげられ、玉城町のことが好きな理由と重なる点がみられる。(P8)
- 玉城町に住みたくない理由としては、都会に出たいことや買い物がしにくい、交通利便性が悪い点などがあげられ、住みたい理由の傾向と同様に、嫌いな理由と重なる点がみられる。(P9)

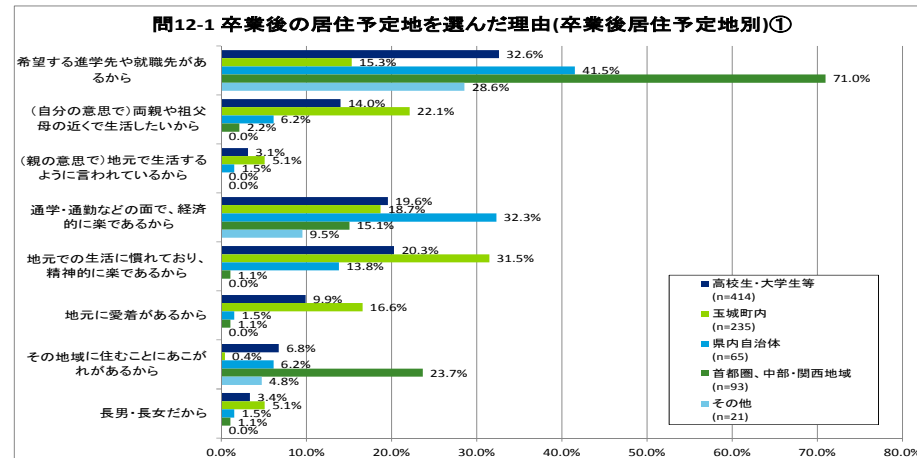
結果まとめ2

※下記のページ番号は資料2の「玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果報告書」をご覧ください。

高校生・大学生年齢相当アンケート調査

■ 今後の居住予定地とその理由について

- 今後の居住予定地は、玉城町が約50%、首都圏、中部・関西地域が約20%となっている。(P22)
- 居住予定地を選んだ理由としては、玉城町内を選んだ方は地元の生活に慣れていることや両親等の近くで生活したいことなどがあげられる。玉城町外を選んだ方は希望する就職先等があることがあげられる。(P23・24)

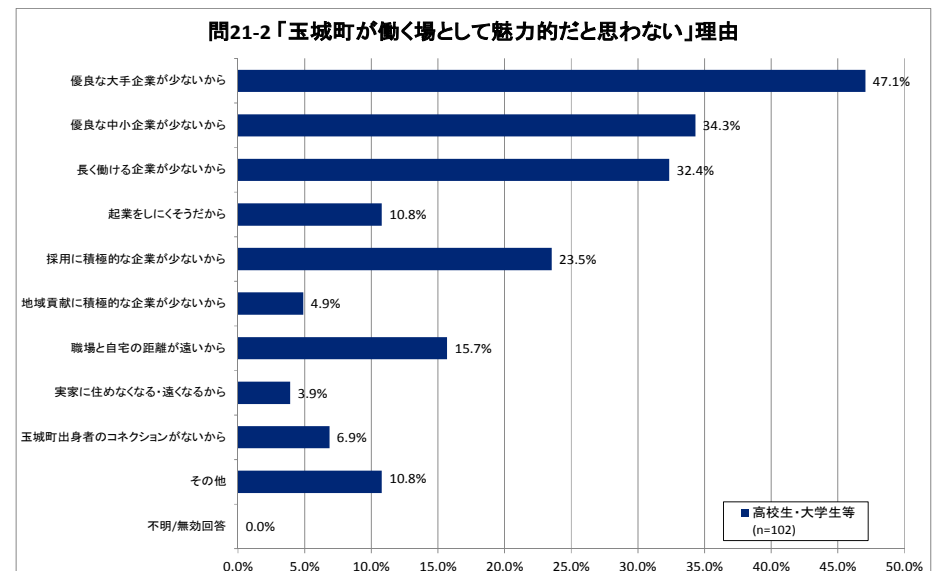


■ 結婚のしやすさについて

- 将来的な婚姻意向は、女性の60%以上が30歳までに結婚したいという意向がある。(P27)
- 結婚支援のために行政が取り組むこととしては、安定した雇用の確保や結婚祝金などの経済的支援があげられる。(P28)

■ 働きやすさについて

- 働く場として魅力的だと思うかについては、わからない方が約45%、魅力的だと思う方が約30%となっている。なお、町内の優良企業を知っている方は、知らない方と比べて玉城町が働く場として魅力的だと思っている。(P32・33)
- 働く場として魅力的だと思う理由としては、優良な大手企業が多いことや職場と自宅の距離が近いことがあげられる。(P33)
- 働く場として魅力的だと思わない理由としては、優良な大手企業・中小企業が少なかったり長く働ける企業が少ないことなどがあげられ、大手企業の有無については、魅力的な理由と魅力的ではない理由のどちらにもあがっている。(P34)



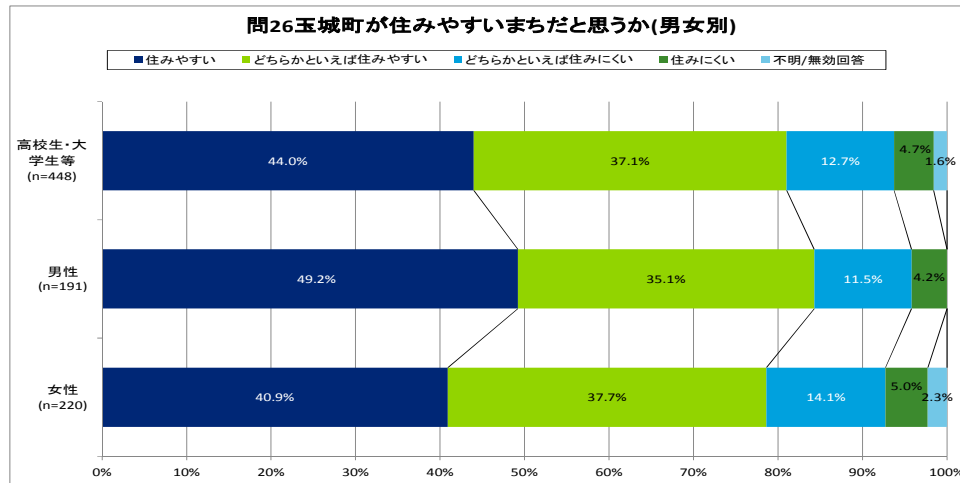
結果まとめ3

※下記のページ番号は資料2の「玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果報告書」をご覧ください。

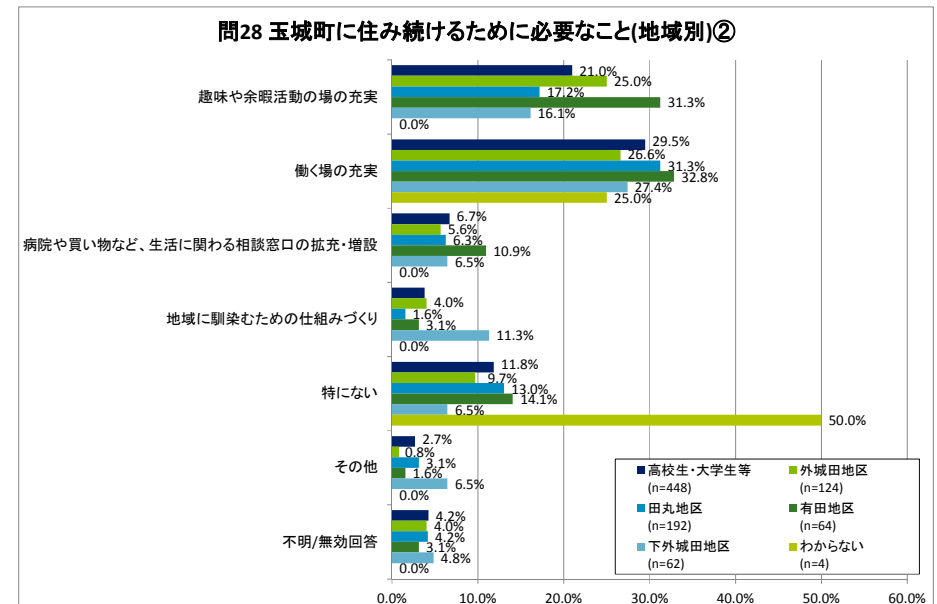
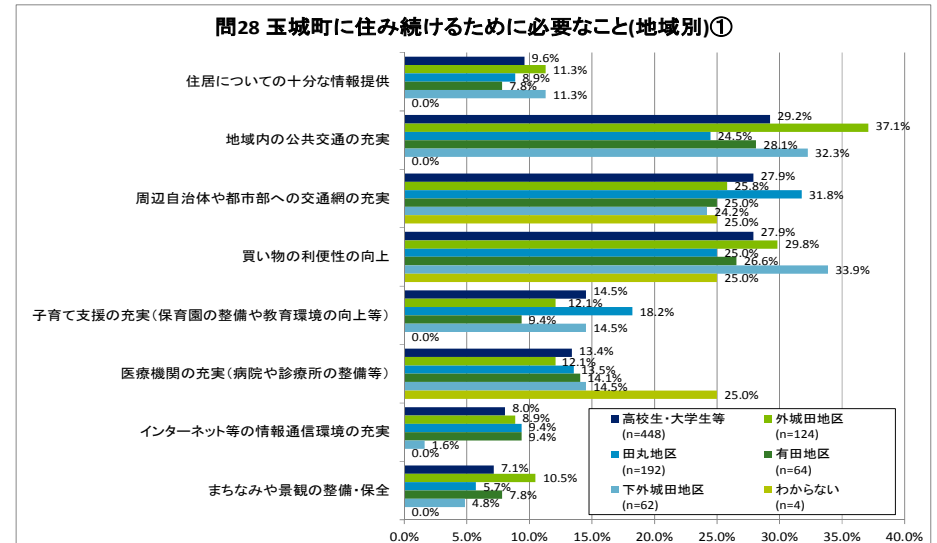
高校生・大学生年齢相当アンケート調査

■ 住みやすさについて

➤ 玉城町が住みやすいと思う方は**80%以上**となっている。(P37)



- 住みやすいと思う理由としては、**自然環境が豊かであることや自然災害が少ない、治安が良いこと**などがあげられる。(P37・38)
- 住みにくいと思う理由としては、**交通の利便性が悪いことや娯楽に関する施設が整っていないこと**などがあげられる。(P38・39)
- 住み続けるために必要なことは、地域別で差が生じているものの、「**地域内の公共交通の充実**」や「**周辺自治体や都市部への交通網の充実**」、「**買い物の利便性**」などの**移動や日常生活の利便性に対する意見が多く**あげられている。また、「**働く場の充実**」についても意見があげられている。(P40・41)



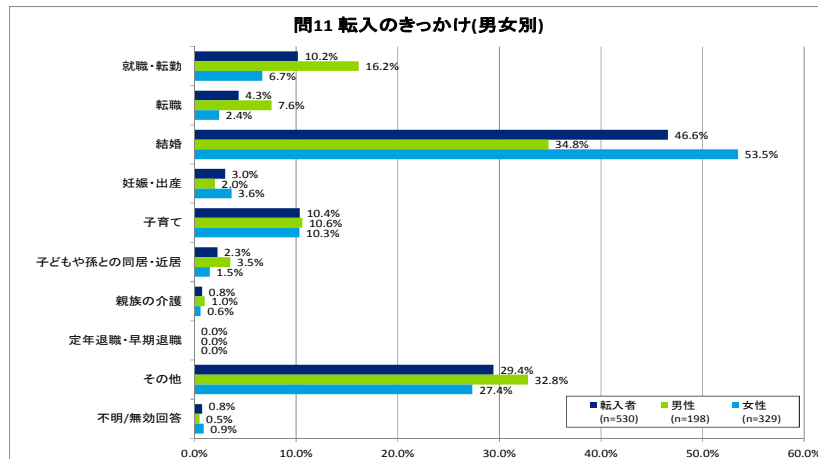
結果まとめ4

※下記のページ番号は資料2の「玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果報告書」をご覧ください。

在住者・転入者アンケート調査

■ 転入について

- 転入者アンケートに回答してくれた方のうち、近隣市町から転入している方が80%以上となっている。そのうち、近隣市(伊勢市、松阪市など)が約65%となっている。(P52)
- 男女ともに結婚を機に転入しており、特に女性の割合が高くなっている。(P52)



■ 結婚のしやすさについて

- 結婚をするつもりがない理由としては、その他を除くと適当な相手がないことや経済的な制約が増えること、自分の時間を失いたくないことなどがあげられる。なお、男女間で差が生じている項目としては、男性は経済的な制約が増えることや子どもがほしくないことなどがあげられる。(P61-62)

- 結婚支援のために行政が取り組むこととしては、安定した雇用の確保や結婚祝金などの経済的支援以外にも、婚活イベントなどによる出会いの場の提供などがあげられる。(P62)
- 結婚支援のために企業が取り組むこととしては、男女間で差が生じており、女性は特に出産後に復職しやすい職場環境づくりや育児休業制度の導入・充実などに意見が集まっている。(P63)

■ 子育てのしやすさについて

- 子育てする場として玉城町が魅力的だと思うかについては、男性は約60%、女性は70%以上が魅力的だと思っている。(P64)
- 子育てする場として魅力的だと思う理由としては、保育所などが充実していることや自然環境が豊かなことなどがあげられる。(P65)
- 子育てする場として魅力的だと思わない理由は、出身者と転入者で差が生じており、特に出身者は医療体制が充実していないこと、転入者は子どもの遊び場が少ないことなどがあげられる。また、教育機関が充実していないことは出身者と転入者ともに意見が集まっている。(P65)
- 子どもの数が増えるための支援・対策としては、男女ともに安定した雇用の確保や子育てに伴う経済的負担の軽減などがあげられる。また、男女間で差が生じている項目としては、女性は子育てしやすい職場環境づくりなどがあげられる。(P67)

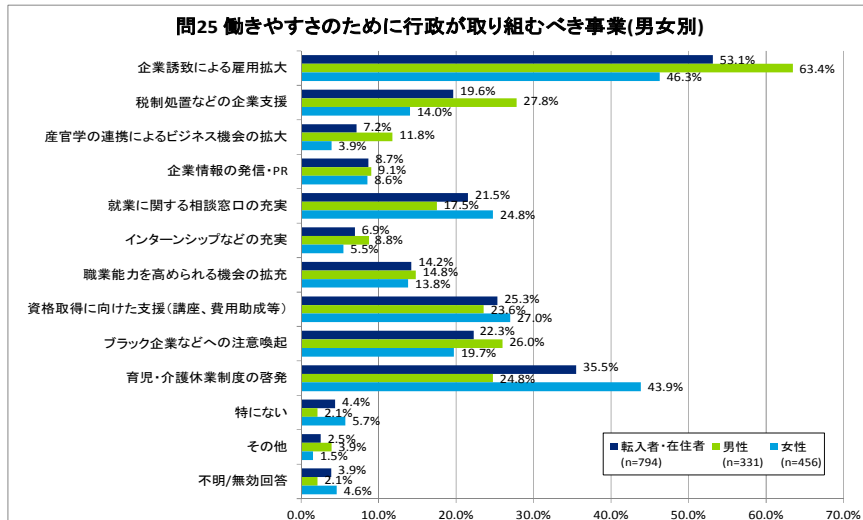
結果まとめ5

※下記のページ番号は資料2の「玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査結果報告書」をご覧ください。

在住者・転入者アンケート調査

■ 働きやすさについて

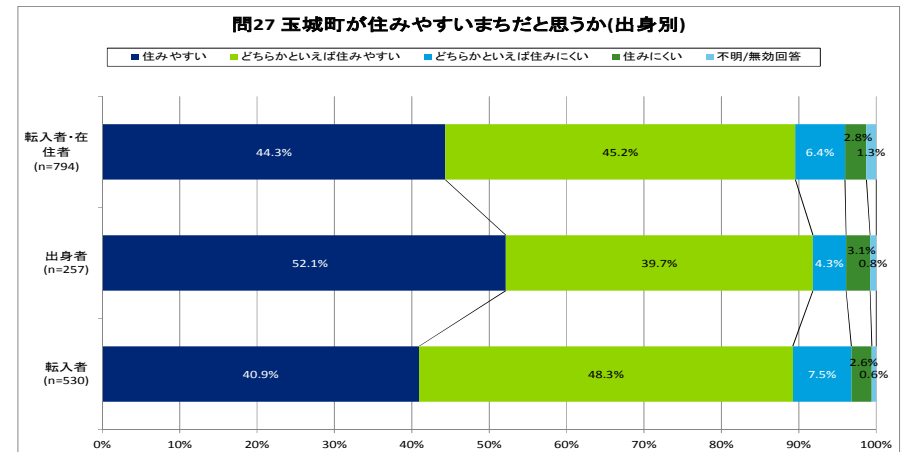
- 働く場として魅力的だと思うかについては、わからないが約40%、魅力的だと思うが約40%となっている。なお、出身者・転入者別では、出身者の約45%、転入者の約40%が魅力的だと思っている。(P69)
- 働きやすさのために行政が取り組むことは、男女ともに企業誘致による雇用拡大に意見が集まっており、特に男性が女性と比べて多くなっている。一方、女性は男性と比べて育児・介護休業制度の啓発が多くなっている。(P71)



- 働きやすさのために企業が取り組むこととしては、給与・ボーナスを増やすことや雇用機会の拡充、正規社員登録の増加などの雇用の量と質に関する意見が集まっている。(P72)

■ 住みやすさについて

- 玉城町が住みやすいと思う方は約90%となっている。(P73)



- 住みやすいと思う理由としては、高校生・大学生等と同様に、自然環境が豊かであることや自然災害が少ない、治安が良いことなどがあげられている。出身者・転入者別で差が生じており、出身者は親や子どもの家の近さ、友人や知人がいることに意見が集まっている。一方、転入者は子育て支援が充実していることに意見が集まっている。(P74)
- 住みにくいと思う理由については、交通の利便性が悪いことや日常の買い物がしにくいことなどがあげられる。一方、転入者は娯楽に関する施設が整っていないこと、友人や知人がいないことに意見が集まっている。(P74・75)

3. 人口動向に関する課題まとめと今後の方向性

人口動向分析及びアンケート調査結果より

人口増加(減少抑制)には、大きく分けて「自然増減」と「社会増減」の2つの要素が関係しています。

人口増加(減少抑制)の仮説ロジック

<凡例>



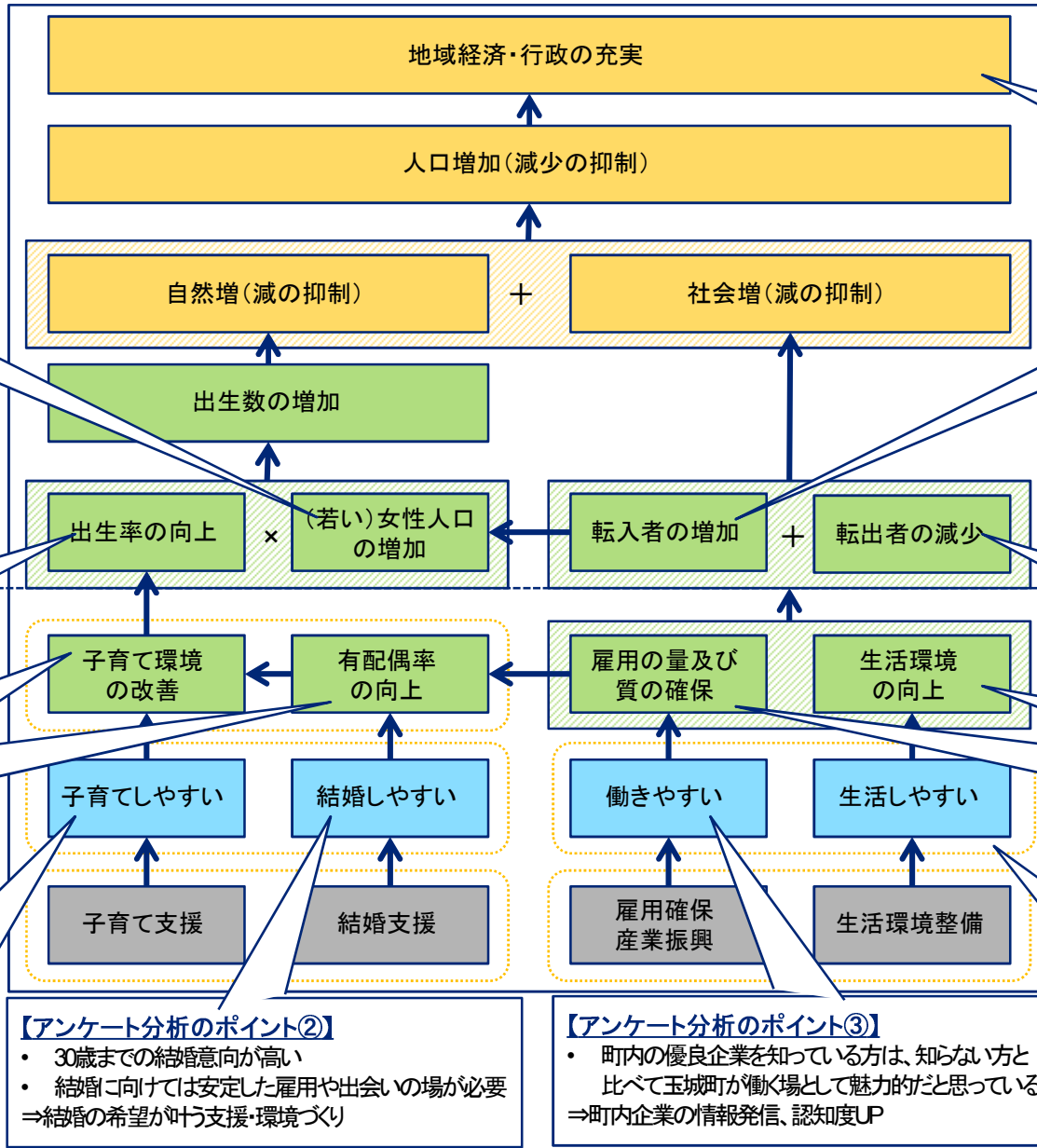
【人口動向分析のポイント①】
 ・ 15～49歳の女性人口は1995年以降横ばい傾向であるが、今後は減少する見込み
 ⇒若い女性人口の維持・減少抑制

【人口動向分析のポイント②】
 ・ 合計特殊出生率は県・近隣自治体の中で高いが、減少傾向
 ・ 特に25～29歳の出生率が減少
 ⇒若い世代(20歳代)の出生率の向上

【人口動向分析のポイント③】
 ・ 待機児童は0人。保育所や学童保育の定員数が拡大している
 ⇒子育てサービスのさらなる充実

【人口動向分析のポイント④】
 ・ 特に25～34歳の有配偶率が減少
 ⇒25～34歳の有配偶率の向上

【アンケート分析のポイント①】
 ・ 魅力的ではない理由に、教育機関や子どもの遊び場が充実していないこと、買い物の利便性が悪いことがあげられる
 ⇒子どもの居場所づくり、生活環境の向上により子育てのしやすさにつなげる



【財政などの影響分析】
 ・ 人口減少により、住民税収入が減少することが予測される
 ・ 高齢者の増加による扶助費等がふくらむ可能性がある 等

【人口動向分析のポイント⑤】
 ・ 25～39歳の転入超過が多く、県内からの転入が主となっている
 ⇒転入超過を維持、向上

【人口動向分析のポイント⑥】
 ・ 20～24歳の県外への転出超過が多くなっている
 ⇒転出者の就職期・子育て期におけるUIターンを促進

【人口動向分析のポイント⑦】
 ・ 近隣町と比べて生活の利便性は高いが、近隣市と比べると低い
 ⇒快適な生活環境の向上

【人口動向分析のポイント⑧】
 ・ 完全失業者数が増加傾向
 ⇒安定した雇用機会の確保

【アンケート分析のポイント④】
 ・ 住みやすい理由は、豊かな自然環境、自然災害の少なさ、治安の良さ
 ・ 住みにくい理由は生活の利便性が良くないこと
 ⇒交通の利便性、買い物の利便性等の向上

【アンケート分析のポイント②】
 ・ 30歳までの結婚意向が高い
 ・ 結婚に向けては安定した雇用や出会いの場が必要
 ⇒結婚の希望が叶う支援・環境づくり

【アンケート分析のポイント③】
 ・ 町内の優良企業を知っている方は、知らない方と比べて玉城町が働く場として魅力的だと思っている
 ⇒町内企業の情報発信、認知度UP

地方人口ビジョン

地方版総合戦略

本町の人口動向等に関する課題は社会増減で2つ、自然増減で1つに集約されます。

課題の整理

社会増減の課題

①雇用環境等の充実により、若年層の転出を抑制することが課題である。

- ・ 転出者は若者層(20~24歳)が多くなっている。
- ・ 就職を理由に県外へ転出していることから、町内・近隣市町での就職を促進することで、若者層の転出抑制や玉城町の人口減少の抑制につながる。
- ・ なお、それら若者は玉城町に優良な大手・中小企業が少ないことを、働き場として魅力的ではない理由としている。

②生活環境のさらなる向上により、転入促進・転出抑制につなげることが課題である。

- ・ 転入者は25~39歳の県内からが多くなっているが、その年齢層は転出者も多くなっている。
- ・ 男女とも結婚をきっかけに転入している方が多くなっている。また、転入の際には、玉城町の生活コストの優位性が重視されている。
- ・ 玉城町が住みにくい理由は、生活の利便性が良くないことがあげられており、生活環境(生活コストの優位性・利便性など)の向上を図ることで、結婚期を含めた25~39歳の転入促進及び町外への転出抑制につながる。
- ・ なお、玉城町に働きにきている方が多い中で、生活環境の向上はそれらの方々の転入にもつながると考えられる。

自然増減の課題

③若い世代の結婚意向は高いものの、出会いの場や安定した雇用の確保と質の向上が課題である。

- ・ 合計特殊出生率は比較的高いが減少傾向である。若年層(20歳代)の出生数をあげることで、合計特殊出生率の向上につながる。
- ・ 30歳までの結婚意向は高いものの、25~34歳女性の有配偶率の低下が大きい。
- ・ 結婚するつもりがない理由は、適当な相手がいないことがあげられることから、若年からの良好な出会いの場の創出により、結婚希望の実現や出産希望の実現につながる。
- ・ なお、子どもの数を増やすためには安定した雇用の確保が求められている。

課題を踏まえた目指すべき将来の方向性(案)

- ①働きやすい、働きたいと思われる就労環境づくりにより、町内・近隣市町への就職を促進させ、若者層の転出抑制を図る。
- ②本町の良さを活かした生活環境の向上や安定した雇用機会の確保により、就職・転職期、結婚期、子育て期の転出抑制、町外からのUターンを増加させる。
- ③出会いの場の創出や安定した雇用機会の確保により、有配偶率を向上させる。あわせて、子育て環境の充実により、出生率の向上につなげる。

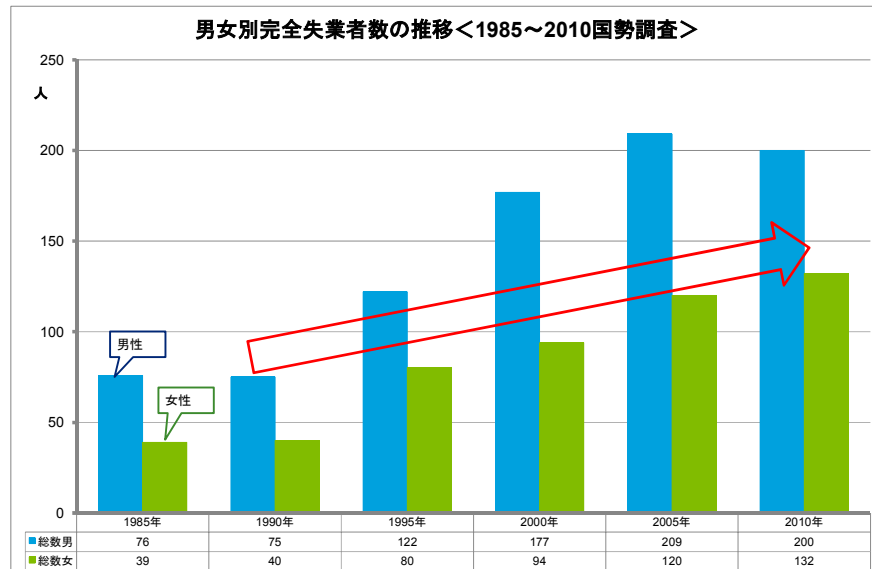
課題①

雇用環境等の充実により、若年層の転出を抑制することが課題である。

人口動向分析

若年層(20~24歳)の転出が多く、今後の人口減少の要因になる。雇用環境は完全失業者数が増加傾向、働く女性が増加しており、雇用の量と質の確保が必要になる。

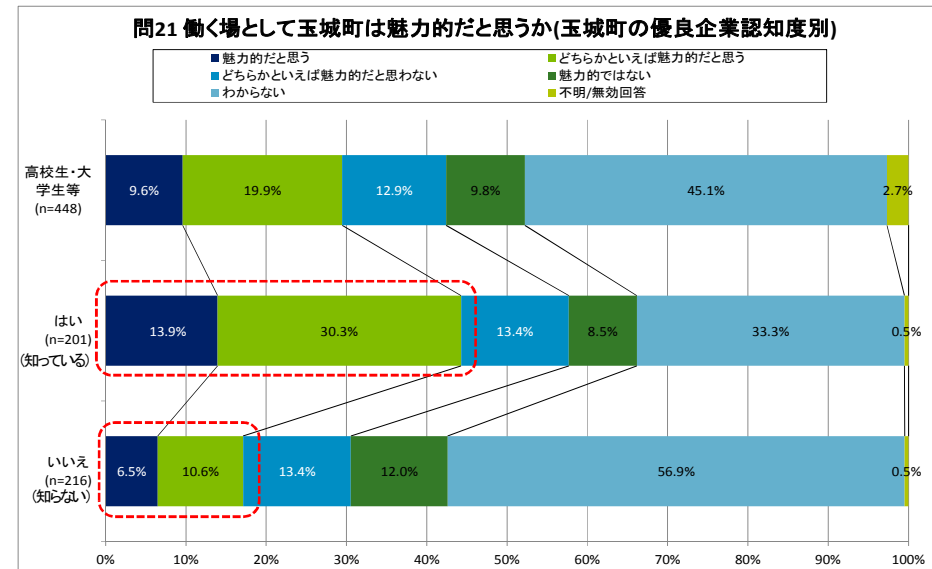
- 20~24歳の就職時期における、県外への転出が多い。
- 転出超過の移動先は、県外自治体が主であり、その中では東海地域が多い。
- 完全失業者数は、男性は2010年に減少しているが、男女ともに1990年と比べて増加傾向で推移している。
- 女性の労働力率は増加傾向になっている。特に、25~34歳の層(子育て時期)においてその増加傾向が大きい。



アンケート調査

若年層は就職を理由に転出している。若年層の町内や近隣市町への就職を促進させることで、今後の人口減少の抑制につながる。

- 町外への転出理由は、希望する就職先があることが最も多い。
- 働く場として魅力的だと思う理由は、優良な大手企業の多さや職場が自宅に近いことがあげれる。
- 働く場として魅力的だと思わない理由は、優良な大手企業・中小企業が少ないことがあげられる。
- 町内の優良企業を知っている方は、知らない方と比べて玉城町が働く場として魅力的だと思っている。



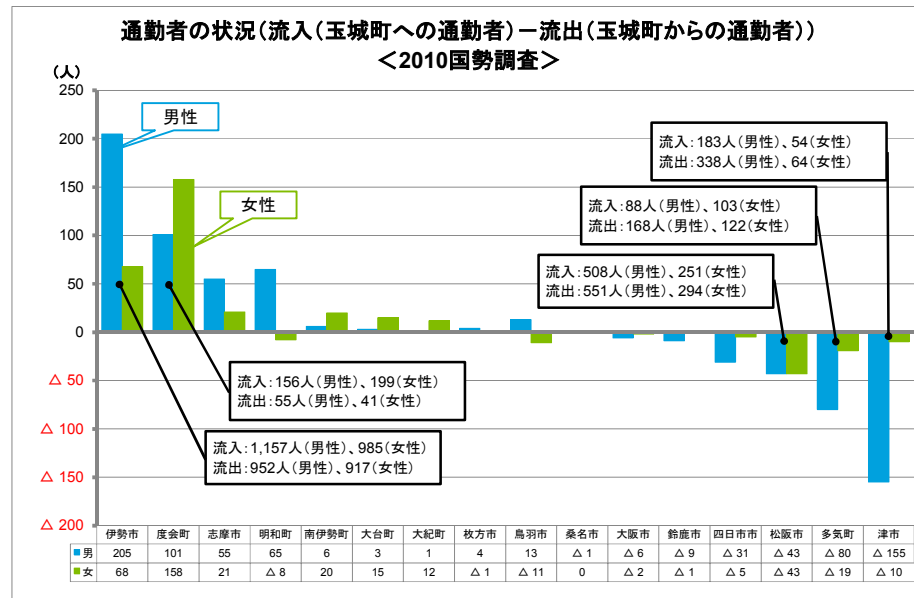
課題②

生活環境のさらなる向上により、転入促進・転出抑制につなげることが課題である。

人口動向分析

近隣市町からの通勤者が多く、働き場としての特徴がある。本町の生活環境の強みを活かし、通勤者を転入者として転換できれば、人口増加(減少抑制)につなげられる。

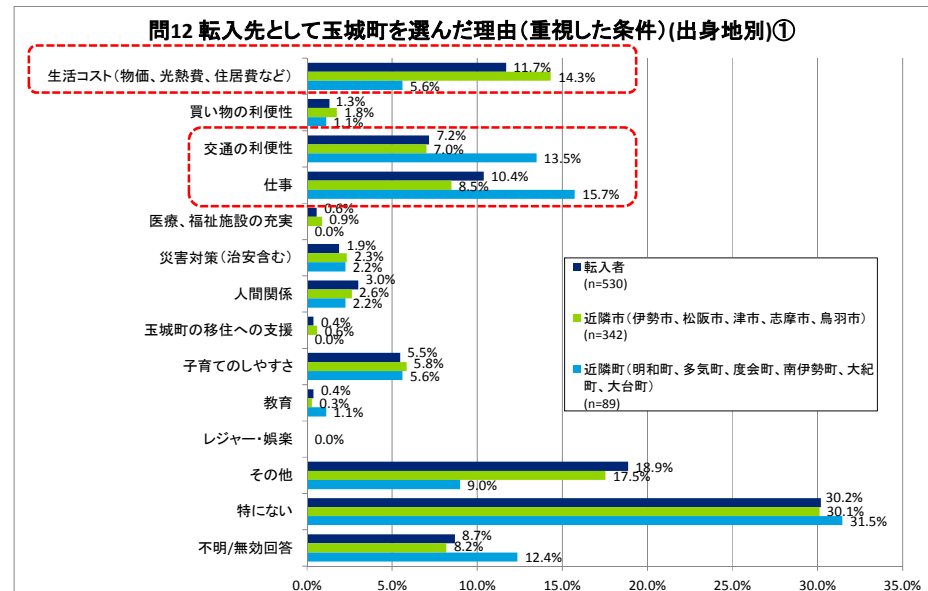
- 近隣市町からの通勤者(流入人口)が多くなっている。
- 25～39歳の就職・転職期、結婚期、子育て期における県内からの転入超過が多い。(25～34歳の転入数は多いが、転出数も多い)
- 近隣市と比べて生活の利便性が低い、治安の良さや住宅面積の広さに優位性がある。
- 近隣町と比べて、生活の利便性(ショッピングセンターまでの距離、飲食店の集積度、鉄道駅までの距離、病院等までの距離)は高い方である。



アンケート調査

結婚を機に玉城町に転入している方が多い。近隣の市民と町民では玉城町を転入先として選ぶ理由が異なり、生活環境(コスト、利便性)と仕事に関係している。

- 転入者の場合、転入のきっかけは男女ともに結婚が多い。
- 転入者の場合、本町への転入の際に重視した条件としては、近隣市からは生活のコストの優位性、近隣町からは仕事や交通の利便性に関係している。
- 住みやすい理由は、豊かな自然環境や自然災害の少なさ、治安の良さがあげられる。
- 住みにくい理由は、生活の利便性(交通や買い物など)が良くないことがあげられる。



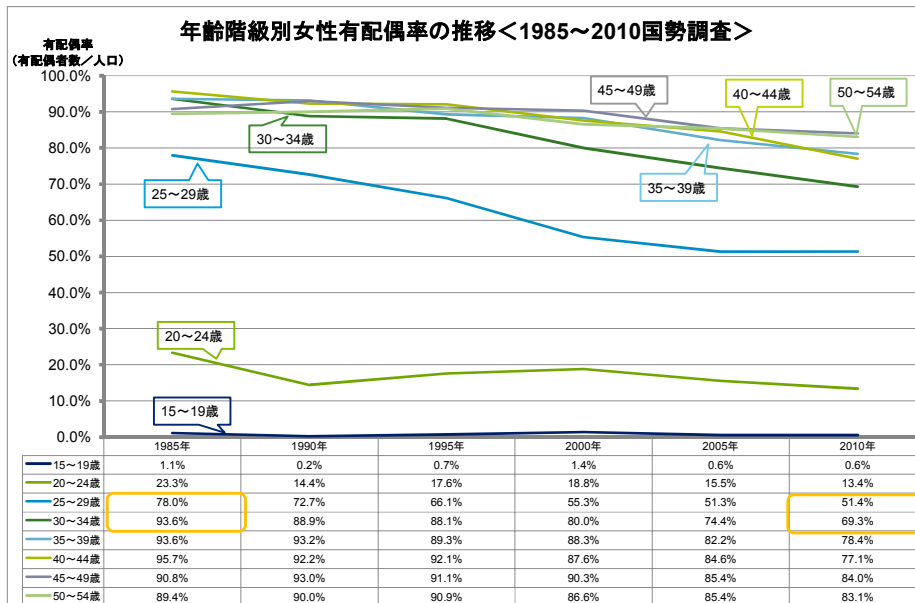
課題③

若い世代の結婚意向が高いが、出会いの場や安定した雇用の確保と質の向上が課題である。

人口動向分析

合計特殊出生率の向上には、若年層の出生率を高めることが考えられる。それら年齢層の有配偶率が低下していることから、有配偶率の向上をめざし、子どもの数の増加につなげていくことが必要である。

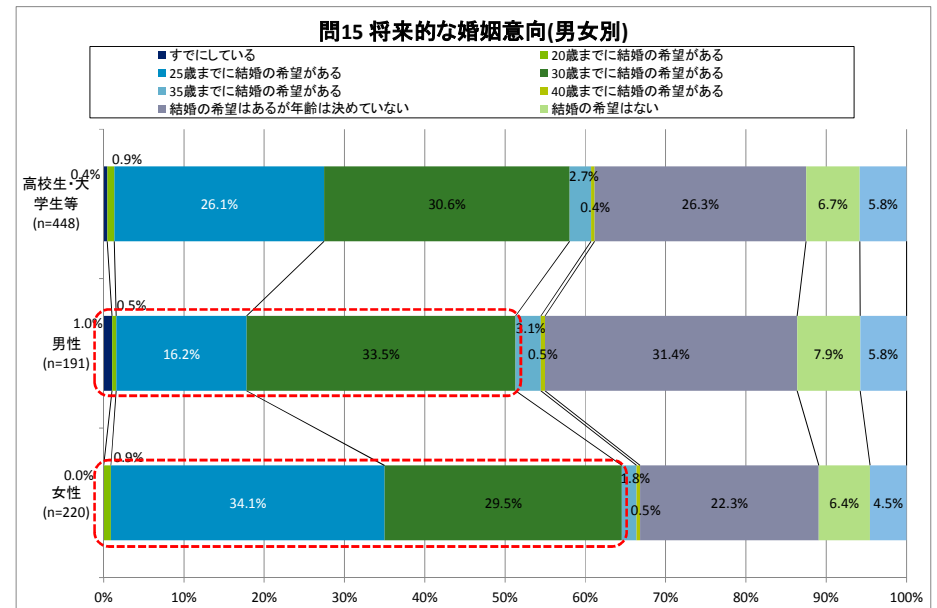
- 本町の合計特殊出生率は、県、近隣自治体と比べ、高い水準が続いている。
- 20歳代の女性1,000人当たり出生数が減少傾向になっている。
- 有配偶率の推移をみると、30～39歳の男性、25～34歳の女性の低下が著しい。



アンケート調査

女性は30歳までの結婚意向が60%以上である。結婚に向けては、良好な出会いの場が必要であるとともに、安定した雇用機会の場や所得の向上が求められる。

- 女性は30歳までの結婚意向が高い。また、女性では適当な相手がいないことが結婚するつもりがない理由として高い。
- 結婚に向けては、安定した雇用機会の確保や所得の向上が求められる。女性では、子育てに配慮した職場環境が求められる。
- 子どもの数が増えるために、安定した雇用機会や子育てしやすい職場環境の整備、経済的負担の軽減があげられる。
- 子育てする場として魅力的だと思わない理由は、教育環境や生活の利便性が良くない、子どもの遊び場が少ないことがあげられる。



課題を踏まえた目指すべき将来の方向性(案)

課題	将来の方向性	内容
<p>①雇用環境等の充実により、若年層の転出を抑制することが課題である。</p>	<p>⇒</p> <p>①働きやすい、働きたいと思われる就労環境づくりにより、町内・近隣市町への就職を促進させ、若者層の転出抑制を図る。</p>	<p>企業や関係機関と連携し、誰でも働きやすい就労環境づくりに努めるとともに、町内の企業や雇用環境の情報や魅力発信を強化し、町内・近隣市町の企業への若者の就業を促進させ、町外への転出を抑制します。</p>
<p>②生活環境のさらなる向上により、転入促進・転出抑制につなげることが課題である。</p>	<p>⇒</p> <p>②本町の良さを活かした生活環境の向上や安定した雇用機会の確保により、就職・転職期、結婚期、子育て期の転出抑制、町外からのUIJターンを増加させる。</p>	<p>デマンドバスを活かした移動手段の充実や買い物の利便性向上等の日常生活の利便性を向上させるとともに、安定した雇用の確保、拡大により、就職・転職期、結婚期、子育て期をはじめとした、さまざまな年齢層における町外からのUIJターンを増加させます。</p>
<p>③若い世代の結婚意向は高いものの、出会いの場や安定した雇用の確保と質の向上が課題である。</p>	<p>⇒</p> <p>③出会いの場の創出や安定した雇用機会の確保により、有配偶率を向上させる。あわせて、子育て環境の充実により、出生率の向上につなげる。</p>	<p>出会いの場の創出や結婚支援、安定した雇用機会の確保により、結婚希望がかなえられる社会づくりに努めます。また、子育て環境の充実により、出産希望の実現や出生率の向上につなげます。</p>